



ふるさとに伝わり
地域の人々に愛された
郷土玩具の姿を
写真と解説で丁寧に記録!



日本の 郷土玩具

撮影／菌部 澄
解説／坂本一也

全1巻



日本図書センター

日本各地における庶民の祈りや願いを伝える貴重な郷土玩具を一挙に集成!

特色 ●各地で古くから親しまれ、今や消えつつある郷土玩具を一挙に紹介!

郷土玩具の収集家としても知られる写真家・園部澄氏によって撮影された、394点もの写真を収録。各地域で古くから受け継がれてきた郷土玩具の姿を生きたきと切り取る!

●地域に根ざした郷土玩具の成り立ちを知る!

坂本一也氏による詳細な解説は、収録した郷土玩具の歴史や特色を伝える。各地の習俗や民間信仰とも深い結びつきを持つ郷土玩具の独自のあゆみをうつします!

●民俗学、美術史、教育学など幅広い分野で必備のレファレンス資料!

子どもの文化や子育ての様子を伝える貴重な文化財として、手仕事ならではの素朴な造形美を残す郷土玩具は、日本古来の工芸デザインを今に伝える!



▲江の島の宝舟 (神奈川県藤沢) 木製

■園部 澄 (そのべ きよし)

1921年東京生まれ。1943年から木村伊兵衛に師事。その後、岩波映画製作所で『岩波写真文庫』を担当したのち、1957年フリーカメラマンとなる。ふるさとをテーマにした民俗写真を数多く撮影する一方、郷土玩具の収集家としての顔も持つ。1996年逝去、享年75歳。

■坂本一也 (さかもと かずや)

1923年東京生まれ。明治大学卒。1965年全日本郷土玩具展事務局をつくり事務局長として就任。『郷土玩具職人ばなし』など郷土玩具に関する書籍も著す。

構成 ※一部抜粋

●図版 撮影/園部 澄

■東北

(南部風絵、鳴子こけし、扇ねぶた、えんぶり人形、弘前馬こ、下川原土人形、青森土人形、つぐりごま、弘前の鳩笛、花巻土人形、先陣駒、キナキナ坊、串姉こ、横手の祝儀棒、仙台張子、気仙沼天神、鶴岡土人形、庄内板獅子、会津張子、三春張子、相馬野馬追武者 ほか)

■関東

(犬張子、村松の真弓馬と宝船、うづまの鯨、日光茶道具、眠り猫、鴻の巣の練物、勝浦のまこも馬、柏の首人形、多摩のだるま、箱根ヶ崎のだるま抱え猫、湯島天神のうそ絵馬、柴又のはじき猿、品川千体荒神の住吉踊り、深大寺赤駒、とんだりはねたり、江の島のぶぐ提灯、鶴岡八幡宮の鳩鈴 ほか)

■中部

(横須賀の凧、今町の土人形、のろま人形、三角だるま、鯛灯籠、富山の獅子頭、米喰い鼠、金沢のだるま、甲府だるま、信州のわら馬、諏訪の御幣、高山土人形、中根神社の招福棒、浜松張子、廻りねずみ、牛若弁慶、でんでこ太鼓、豊橋の赤天神、一宮のおん馬、蒲郡の弁天様、豊川稲荷の狐 ほか)

■近畿

(伏見人形、嵯峨面、祇園鉾、茶の木人形、草津張子、大津絵馬、日吉神社の神猿、近江だるま、伊勢竹コマ、大入道、伊勢の練物玩具、松阪陶鈴、奈良人形(一刀彫)、張子鹿、法華寺の守り犬、高野山の導き犬、姫路の張子面、堺土人形、清水の人力車、神農さんの虎、今宮の福俵と小宝、大阪の影絵 ほか)

■中国・四国

(流し雛、田舎雛、きびから姉様、きりん獅子、八上羽子板、倉吉の竹馬、はこた人形、松江の姉様、今市の白天神、倉敷張子面、津山練天神、西大寺張子虎、吉備津こま犬、宮島の鹿猿、三体御輿、柳井の金魚提灯、赤間の大漁鈴、高松張子、土佐姉様、高知女だるま、鯨車と鯨舟、松山武者人形、宇和島の首振り虎 ほか)

■九州

(きじ車、鯛車、博多人形、津屋崎土人形、柳川の豆凧、甘木のバタバタ、大宰府のうそ、小倉の姉様、尾崎土人形、伊万里人形、佐世保コマ、ペーロン船、長崎の凧「ハタ」、平戸の凧、天草土人形、宇土張子、板相撲、阿蘇山の魔除け鈴、人吉の花手箱、お化け金太、五人姉様、佐土土人形、神代こま、国分の諸玩 ほか)



◀[左上] 五色だるま (埼玉県鴻巣の巣) 練物
[左下] 大戸第六天の起上り (埼玉県岩槻) 紙製
[右] 船渡の張子「牛乗り天神」 (埼玉県越ヶ谷) 紙製



▲火防の凧 (東京都王子) 紙・竹製

[左上] 西大寺張子虎 (岡山県西大寺) 紙製
[左下] 吉備津こま犬 (岡山県真金) 土製
[右] 宮島の鹿猿 (広島県宮島) 土製

東北



1 57 x 16cm

南部風絵 (青森県八戸) 紙製
大きく見張った目、固く結んだ口、はち切れんばかりの息、見るからに邪は、南部風の怪長といえよう。
昔、八戸市郊外にある熊野神社の祭礼の折には巫合衆が盛んに狂なむけの舞は遠くからでも判別できることあり、そのため顔面を大きくしますが、南部風は金時や女武者がさまざまな動物で、それも顔と黒髪を色し、力強くしかも美しく描かれています。
首に用いる竹のないこの地方では、細い扇を首紐にしたのですが、忘れられるようになってからは、その技藝を伝える型絵だけが残っています。



2 31cm

鳴子こけし (宮城県鳴子) 木製
鳴子温泉で作られる鳴子こけしは、素朴可憐という言葉をもらったもので、顔は色に見られない赤い手を描き、目は黒い目、口は赤とよく肉盛りのとれた口には切実な苦みや愛の温度が描かれています。
このこけしはハメコ式といひ、胴部を文ぐり、首部の下の部分を少し大きくタンボ状に作り、コトコトの音を出すようにして一筋に差し込んだもので、首を揺るとキキイイ鳴ります。これから鳴子と張子名が出た等と誤り人もありますが、それはどうかと思います。とにかくこけしの生命は顔にあり、独特な造形は十分に鑑賞の対象となります。



3, 4 40, 31cm

こけし
こけしは、東北独特の民間品であり、数100年伝承を守り続けて来た、いわば歴史的な文化財としても貴重な存在です。
その昔55代文徳天皇の皇子額田王は後きもの技藝を教えられ、木地師の祖といわれていますが、本郷野と呼ばれた一群の人々は各地に散り、現き馬一本を求めて山の深淵を抜け、それが定着してその地方の本地業の先達をつけたのです。その変遷の如何は別としても、東北一円にのみこけしがあるということは、まことに奇異に感じられるもので、あるからこけしの伝承に心を傾ける人も多いのです。
こけしの材料はイタヤ・ミズキ・アオハダのような硬い木、木目が白く、年輪が



◀「解説」ページより

日本の郷土玩具

全1巻

- 撮影：園部 澄／解説：坂本一也 *地図・本文カット 武井武雄
- 定価：29,400円(本体28,000円+税) ISBN978-4-284-40119-7
- 体裁：B5判変型・上製・約500頁
- 底本：『日本の郷土玩具』全1巻(1964年、美術出版社刊)

2010年
2月刊行



◆おすすめ先◆

民俗学・美術史・宗教学・教育学などの研究者、大学図書館、
公共図書館、専門図書館など

好評関連図書

伝承デザイン資料集成 日本のしるし 全5巻

- 高橋正人著 ■ A4判・総約1,100頁
- 定価60,900円(本体58,000円+税)
- ISBN978-4-284-40110-4
- 底本●『日本のしるし』〈新装版〉全4巻(1986年、岩崎美術社刊)
- 『武家のしるし』全1巻(1978年、岩崎美術社刊)



武家・商家の家紋や船・火消の印などの伝統的しるしを視覚コミュニケーションの立場から分類・解明。収録写真1,500点!

〈各巻内容〉

- ①家のしるし ②諸業種家じるし
- ③商品・業種のしるし ④火消・船・講・まじないのしるし ⑤武家のしるし

服飾の世界史 全2巻

- 丹野 郁著 ■ B5判・総約580頁
- 定価39,900円(本体38,000円+税)
- ISBN978-4-284-40116-6
- 底本●『服飾の世界史』全1巻2分冊「本篇」「資料篇」(1985年、白水社刊)



煌びやかに、艶やかに世界を彩った服飾の一大文化史!数々の貴重な写真から服飾の歴史をたどることができる価値ある資料。

〈各巻内容〉

- ①服飾の世界史 本篇
- ②服飾の世界史 資料篇

日本祭礼地図 全5巻

- 和歌森太郎・三隅治雄・本田安次・宮本常一・田原久・原浩一・榎本由喜雄・木下忠編
- B5判・総約2,140頁
- 定価63,000円(本体60,000円+税)
- ISBN978-4-284-50114-9
- 底本●『日本祭礼地図』全5巻(1976~80年、財団法人国土地理協会刊)



郷土色豊かな祭礼とテーマ別大型地図で日本文化の多様性を捉える。

〈各巻内容〉

- I 春季編 II 夏季編 III 秋季編 IV 冬・新春編 V 付録・索引編

日本社会民俗辞典 全4巻

- 日本民族学協会編
- B5判・総約1,800頁
- 定価60,900円(本体58,000円+税)
- ISBN978-4-8205-8923-5
- 底本●『日本社会民俗辞典』全4巻(1952~60年、誠文堂新光社刊)



日本の民俗学研究の原点にある基礎資料!執筆陣214名が、わかりやすい記述と独自の視点で民俗学を追究する。

〈各巻内容〉

- ①あ〜こ/分類項目表 ②さ〜ち
- ③つ〜ほ ④ま〜わ/総索引

日本図書センター

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-8-2
TEL.03-3947-9387 FAX.03-3947-1774
<http://www.nihontoshu.co.jp>